

中野・佐世保バーガーの一階フロア。
上手から、キッチン、カウンター、客席フロアと、下手へ広がる。
手前、やや上手寄りに外への出入り口がある。
中央奥には、二階へ上がる階段がある。
時刻は午後十一時過ぎ、閉店の時間は過ぎてている。

店内一階に客はおらず、三人のスタッフは清掃をしている。
店長・タメヨシは、フロア清掃及びテーブル拭き。
店員・ナツはカウンター内で清掃及び在庫整理中。
店員・慎之介はフロアで清掃をしているように見えるが、
新聞を畳み直したり、雑誌を並び替えたり、物の位置を微調整したり、と
全く役に立っていない。むしろ店長のジャマになっている。
店長、店内を見渡し、時間を確かめる。

店長　じゃあ、そろそろ二人ともあがっちゃっていいよ
ナツ　はい。そんじゃこ終えたら帰りまーす
店長　あ、トマトさ、あといくつ残ってる？
ナツ　トマトは……と、あと、一、二、三……六個ですね
店長　了解、発注しとくわ

慎之介、テーブルに逆さまに乗っているイスを、やたら微調整。
見る角度を変えて、微調整。気に食わず、直す。それもしつくり来ず、直す。
それを見ている店長。

店長　……おい、慎之介。ウチにや前衛アートの支払う金はないぞ
慎之介　店長、どうですかね、このバランス？
店長　どうでもいい、帰れ
慎之介　店長、僕は大丈夫です。大丈夫なんで。ははははは

慎之介、いろんなところを拭き始める。意味のないところも拭く。
店長、あきれて自分の作業に戻る。
ナツ、カウンター内の作業を終える。

ナツ タメさん、じゃ、お先です
店長 おう、お疲れ

ナツ、エプロンを外しながら階段を上り始める。

店長 あ、ナツちゃんごめん

ナツ はい？

店長 あの、二階の例の……

ナツ あ、……はい

店長 上行ったらさ、もう一回声かけてもらっていいかな？

ナツ (時間を確かめ) 今日はまたしぶといですね

店長 な。じゃ悪いけど、よろしく

ナツ りよーかいです

ナツ、二階へ上がって行く。

慎之介、無意味な拭き掃除を続けている。

中央奥の壁のレンガをなんか拭き続けている。

それを見ている店長。

店長 あの、慎之介……

慎之介 え、あはは、大丈夫ですよ、店長。あとは俺やつときますんで、先

に上がって下さい

店長 うん、気持ちはありがたいんだけど、この後ひたすらレンガ磨きさ

れてもさ……

浮浪者 いらっしやいませ

上手から現れた浮浪者が、出入り口の外に立っている。

ひと目見てそれと分かる、ボロボロの身なり。

店長 また……

浮浪者 「また」とはどういうことかね。ここにこうして来ている事実を鑑

みれば、僕は客かもしれないじゃないか

店長 客は店先で「いらつしやいませ」とは言わないよ
浮浪者 ああ、それに自ら「客かもしれない」と言っている時点で、客ではないな

間

浮浪者 ……めんどくさ。そう思ったね？

店長 い、いや

浮浪者 そう、めんどくさいんだ。人と人が分かり合うということとは、とかくめんどくさい。さらには、分かり合えたと思っても、実のところそのつもりになっているに過ぎないんだ。分かり合えたという錯覚、そこに溺れるのが人間なのかもしれない

店長 あの、帰って下さい

浮浪者 (気にしない) 時に店主、そなたはなぜ僕が「いらつしやいませ」と言っただかわかるか？

店長 わかりませんよ

浮浪者 あきらめるなっ！

店長 あきらめるほどの情熱がねえよ

浮浪者 さあ、もう一度、ゆつくり、少しずつ、できることから

店長 ああ、ムダに的確なアドバイス……

浮浪者 さあ、なぜ「いらつしやいませ」だ？

店長 ……じゃ、言いたかったからじゃないですか？

浮浪者 ……そ、その通り。正解だ！ 君はすごい！

店長 あ、理解できないと、褒められてもこんなに嬉しくないんだ

浮浪者 僕には、家がない。店なんでもつてのほかだ。そんな僕が「いらつしやいませ」なんて言う機会があると思うかい？ いいや、思わない。だから、本来僕が言うのはおかしいのはわかっているが、店舗の入り口というシチュエーションに甘えて、敢えて言わせてもらったんだ、「いらつしやいませ」と。ありがとう

店長 帰れ

浮浪者 それは、またおかしなことを言う、僕はそなたの店舗には一歩たりとも足を踏み入れていない。ならば、ここは天下の公道。国の物であ

り、国民の物だ。誰にも文句は言わせない

店長 ああ、そうですかっ

浮浪者 いや、待てよ。僕は果たして国民か。税金も払っていないし、戸籍だつて確か……

店長 あの、もう閉店するんです。ご用件は？

浮浪者 閉店、ああ知っているよ。ただ閉店して問題があるのは、僕が客だった場合だ。僕は客じゃない。そもそもこんな格好で入店するほど、僕だつて常識ではないんだ。公共の施設に足を踏み入れる場合は、それなりの格好に着替えるのがマナーだと僕は思っているよ

店長 ご用件……

浮浪者 あ、でもテイクアウトならOKか（テイクアウト、発音よく）

店長 ご用件！

浮浪者 残り物をください！

店長 ないっ

浮浪者 ありがとうございます！

店長 聞け、人の話を！

浮浪者 いいじゃないか！ どうせ捨てるんだろ！（大きく通る声で）

店長 正義っぽく言うなっ

浮浪者 考えてみてもくれまいか。今はどこもチェーン店ばかり、実際チェーン店しか生き残れない時代だ。チェーン店には残り物の廃棄に厳重なルールがある。ゴミ箱に鍵を閉める所もある。それならば、僕らの生命線は個人経営の残り物しかないではないか

店長 あのね、前もそうやって理路整然と暴論ふるってうるさいから、残り物あげたでしょ。で、その結果どうなったか、覚えてるでしょうがうん、夜になるとここにホームレスの行列ができるようになった困るんだよ

浮浪者 ああ、一気に倍率が上がってしまった

店長 そこじゃないっ。あの時、「一度だけ」「あなただけ」って確認したでしょ。なんで広めちゃうの

浮浪者 店主、そなたも飲食店を経営する身なら覚えておかねばならない。人間、食べる前と後では、考えが変わる

店長 話にならない。お前はいつまで磨いてるんだ！（慎之介に）

浮浪者 どれ、今一度在庫を確認してみようではないか（入ろうとする）
店長 ふざけんな、帰れ（止めて、外に突き出す）

浮浪者 ……。 ……どれ、今一度在庫を確認して（入ろうとする）

店長 コラコラコラ（止めて、突き出す） 学習能力ゼロかっ

浮浪者 ダメ、なのか

店長 お引き取りを

浮浪者 もしや僕の根性を試しているのでは……？

店長 ちがう。帰れ

浮浪者 ……そっか。（彼方を見やり、カツコよく） ……またな

浮浪者、上手へ去って行く

店長 もう来るな

浮浪者（声のみ） はっはっはっは……

脱力した店長に、磨いたレンガをアピールする慎之介

店長 ……お前はアレだな、一番掃除しなくていい所を掃除したな

慎之介 店長、『三匹の子豚』ってあるじゃないですかあ

店長 ないっ、帰れ

慎之介 ちよっ、俺に当たらないくださいよ。 ……アイツ、また来ますね

店長 多分な。少なくとも今夜はもう相手にしたくない。さっさと電気落
として帰るぞ

二階からナツが降りて来る。制服から私服に着替えている。

ナツ タメさん、ダメです。例のお客さん、帰ってくださいません

店長 え、帰ってこないって……

（つづく）